

日本語教育のための経済の専門連語

—概論教科書と新聞の比較を中心に—

小宮 千鶴子

【キーワード】 専門語 専門用語 専門連語 経済 教科書 新聞

1. はじめに

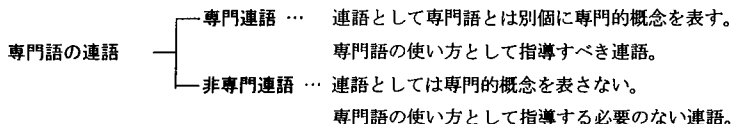
専門語（専門用語とも）^{註1}は、日本語で専門教育や技術研修などを受ける留学生や研修生などにとって重要な語だが、学習者の学習目的によって必要な専門語が異なり、日本語教師による指導も難しい（仁科 1997）。日本語教育の目安である『日本語能力試験出題基準改訂版』（2002）の「1,2級語彙表」には、経済分野の場合、「物価」「輸入」などごく基本的な専門語しか掲載されておらず、「公定歩合」「耐久消費財」など新聞やテレビにも登場する多くの基本的な専門語は指導されない。そのため、日本語教育を終了し、大学で専門教育を受け始めた留学生からは、専門語の問題が挙げられている（西谷 2001, 佐藤 2003, 水本・池田 2003, 村岡 2003）。

そのような問題を軽減するため、経済分野の専門語については、岡（1992）が約 460 語、小宮（1995）が約 800 語、野澤・岡田・村田（1995）が約 1000 語の留学生のための専門語を提示した。さらに、小宮（1997, 2002）は専門語の使い方を示す<専門連語>を提案し、大学の経済分野の概論教科書（以下、概論と略す）と新聞の経済記事（以下、新聞と略す）を資料に「経済の専門導入期における専門連語」906 種のリストを発表する（小宮、印刷中）。

小論は、日本語教育における経済の専門語教育のための基礎的研究として、「経済の専門導入期における専門連語」を構成する概論の専門連語 326 種と新聞の専門連語 618 種について形式の比較を行うことを目的とする。

2. 経済の専門導入期における専門連語

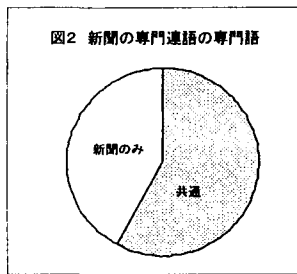
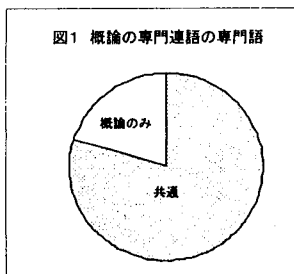
「傘をさす」などの連語^{註2}が一般語の使い方の指導に効果的なことは、既に指摘されている（城田 1991, 秋元 1993, 2002）。小宮（2002）は、専門語の使い方の記述に連語を用いることを試み、専門語と一般語（専門語も含む）とから成る<専門語の連語>には、「公定歩合を引き上げる」「公定歩合の水準」のように連語としても専門的な概念を表す<専門連語>と、「公定歩合を考える」「公定歩合のカード」のように、連語としては専門的な概念を表さない<非専門連語>とがあることを発見し、専門語の使い方として指導すべきものは<専門連語>であると主張した^{註3}。



小宮 (2001) は高校生向けの『政治・経済用語集』(1996) に掲載されている経済の基本的な専門語のうち全ての政治経済教科書に採用された 451 語から『日本語能力試験出題基準』(1994) の「1,2 級語彙表」に掲載されている 57 語を除いた 394 語を留学生が日本語教育を上級まで終了しても未習の基本的な専門語とした。そして、大学の専門基礎科目である、経済学・経営学・商業学の概論の教科書各 1 冊 (約 300 頁) と経済を学ぶ学生に読むことが奨励されている新聞の経済記事 1 年分 (7004 件) を資料に、上記の 394 語の用例を収集した。その結果、252 語の専門語について延べ 7712 件、異なり 5778 種の〈専門語の連語〉を得た。それらを整理し、15 種以上の専門語の連語があった 93 語の専門語の 4890 種の連語 (84.6%) について 3 名の経済の専門家に〈専門連語〉の判定を依頼した。その結果、3 名が一致して〈専門連語〉と判定した 93 語の専門語の 906 種の連語を「経済の専門導入期における専門連語」^{注4}とした。

3. 「経済の専門導入期における専門連語」の共通度

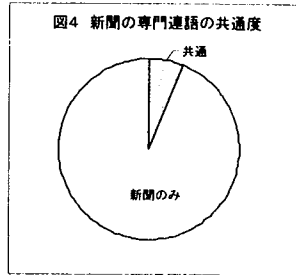
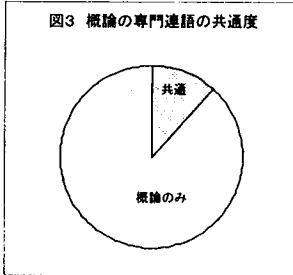
906 種の専門連語は、概論の専門連語 326 種と新聞の専門連語 618 種とから成る^{注5} (重複により合計は 906 種より多い)。それぞれの専門連語を専門語ごとにとまとめると、概論は 59 語、新聞は 81 語で、両者共通の専門語は 47 語あった。47 語は概論の専門語の約 8 割 (79.7%)、新聞の専門語の約 6 割 (58.0%) に相当し、概論と新聞の専門連語の間には共通の専門語が多かった。新聞より概論のほうが共通の専門語の割合が高いのは、新聞の専門連語の専門語が概論のその約 1.4 倍が多いことによると思われる。



両資料に共通の専門語は、「コスト」「国債」「財政政策」「設備投資」「年金」など経済学にもビジネスにも必要と思われる専門語だった。それに対し、概論のみにあった専門語には「需要曲線」「供給曲線」「国民所得」など経済学に必要なと思われる専門語が多く、新聞のみの専門語には「GDP」「IMF」などの略語、

「景気対策」「シェア」などビジネスに関係の深い語が多かった。

では、906種の専門連語を連語として見ると、どうなるだろうか。連語として見るとは、「コストを無視する」(概)と「コストが上がる」(新)とを別の物として扱うということである。そうすると、概論と新聞に共通する専門連語は38種しかなく、それぞれ、概論の専門連語の1割強(11.7%)、新聞の専門連語の1割以下(6.1%)だった。



概論も新聞もいずれも経済について述べた文章ではあるが、それぞれ目的も対象も内容も表現も異なる。そのことが両者の専門連語において共通の専門語は多いものの、共通の専門連語は少ないという結果につながったものと思われる。この結果から、①専門語については、新聞を教材にしなが概論に必要な専門語もある程度は教えられる、②同じ教材を扱う場合も教師は専門語を教えるのか、専門語連語まで教えるのかを決めて指導する必要があるといえよう。

4. 専門連語の品詞

906種の専門連語において専門語と組み合わせる一般語の品詞は、動詞、名詞、形容詞(形容動詞も含む)の3種に分かれ^{註6}、名詞との専門連語が7割近くを占めて最も多く、次いで動詞との専門連語が3割弱あり、形容詞との専門連語は5%以下だった(小宮 2003)。その比率は、概論と新聞とに分けても変わらなかった。

表1 経済の専門導入期における専門連語 906種 ()は実数

	専門連語の例	概論	新聞
動詞との専門連語	経済成長を達成する(概)	28.5% (94)	27.5% (170)
名詞との専門連語	石油危機の影響(新)	66.9 (218)	68.0 (420)
形容詞との専門連語	コストが高い(新)	4.3 (28)	4.5 (28)

以下、それぞれの品詞との専門連語につき概論と新聞の専門連語を比較する。

5. 動詞との専門連語

経済の専門導入期における専門連語には、動詞との専門連語が概論に94種、新聞に170種あった。概論の専門連語94種は、「財貨」「コスト」「経済活動」「市場

価格」など 39 語の専門語と動詞とから成る連語であり、新聞の専門連語 170 種は「シェア」「コスト」「景気回復」「所得税」など 52 語の専門語と動詞とから成る専門連語である。両資料に共通する専門連語は、「コストがかかる」「設備投資が減少する」など 12 種のみであった。

5-1. 専門語と動詞との修飾関係

専門語と動詞との専門連語を両語の修飾関係によって分けると、「財貨を生産する」(概)「シェアが上がる」(新)のように専門語が動詞を修飾する専門語修飾型が圧倒的に多く、概論の 96.8% (91)、新聞の 98.2% (167) に達した。

5-2. 専門語と動詞との結びつきの型

専門語と動詞との専門連語を両語の結びつきの型によって分類すると、概論に 10 種、新聞に 8 種の型が見られた。上位 3 種は表 2 のように両資料に共通で、特に「専門語+が+動詞」「専門語+を+動詞」で概論の 82.9%、新聞の 85.3% に上った。前者は「有効需要が増加する」(概)「公定歩合が上がる」(新)など経済現象を述べるのに重要であり、後者は「株券を売買する」(概)「公共事業を執行する」(新)など企業や家計、政府などの経済主体の経済行動を述べるのに重要な専門連語と思われる。秋元 (2002: 237) は一般語の連語では「名詞+を+動詞」型が最も多いと述べるが、専門連語の場合とは異なり、興味深い。

表 2 専門連語における専門語と動詞との結びつきの主な型

結びつきの型	専門連語の例	概論	新聞
専門語+が+動詞	シェアが上がる (新)	45.7% (43)	45.3% (77)
専門語+を+動詞	財貨を購入する (概)	37.2 (35)	40.0 (68)
専門語+に+動詞	市場経済に移行する (新)	4.3 (8)	4.7 (8)

5-3. 動詞の語種と語構成

専門語と動詞との専門連語を動詞の語種によって分類すると、表 3 のとおり概論も新聞も混種語の動詞との連語が 5 割を超え、次は和語との連語だった。混種語の動詞の中心は漢語サ変動詞で、概論ではそれとの連語が 8 割を超えたのに対し、新聞では 5 割をやや上回る程度にとどまり、残る 5 割近くは和語動詞との連語だった。これは「所得税を徴収する」(概)、「所得税を取る」(新)のように、専門教育の基礎として正確な表現を重視する概論教科書と一般向けにわかりやすい表現を心がける新聞という文章の性格の違いなどによるものと思われる^{注7}。

表 3 動詞の語種による専門連語の分類

	専門連語の例	概論	新聞
混種語動詞との専門連語	金融機関を保護する (新)	81.9% (77)	52.4% (89)
和語動詞との専門連語	コストを下げる (概)	18.1 (17)	47.6 (81)

専門語と動詞との専門連語を動詞の語構成によって分類すると、両資料とも単純語の動詞より合成語の動詞との連語が多かった。概論では合成語の動詞との連語が9割を超えたのに対し、新聞では7割近くにとどまったが、その分、単純語の動詞との連語が3割以上あった。合成語の動詞の多くは複合動詞である漢語サ変動詞で、単純語の動詞はすべて和語動詞であった。語種の場合と同様に、両資料の性格の違いが表れたものと思われる。

表4 動詞の語構成による専門連語の分類

	専門連語の例	新聞	概論
合成語の動詞との専門連語	生産性が向上する (概)	67.6% (115)	91.5% (86)
単純語の動詞との専門連語	公定歩合が上がる (新)	32.4 (55)	8.5 (8)

次に、専門語と動詞との専門連語を動詞の語種と語構成との組み合わせによって分類すると、表5のようになる。概論は漢語サ変動詞との連語が支配的なのに対し、新聞は和語の単純語の動詞との連語が2番目に多く、和語複合動詞との連語と合わせると5割近くになった。

表5 動詞の語種と語構成による専門連語の主な種類

	専門連語の例	概論	新聞
漢語サ変動詞との専門連語	財貨を生産する (概)	80.9% (76)	50.6% (86)
和語単純動詞との専門連語	シェアが上がる (新)	8.5 (8)	32.4 (55)
和語複合動詞との専門連語	年金を受け取る (新)	9.6 (9)	14.1 (24)

5-4. 日本語能力試験との関係

動詞との専門連語における専門語は、すべて『日本語能力試験出題基準改訂版』の「1,2級語彙表」(以下、「語彙表」と略す)にない語だが、動詞はそれぞれ異なる。動詞が「語彙表」にある専門連語は、そうでない専門連語に比べて学習しやすいと予想されるため、動詞との専門連語をの動詞が「語彙表」における有無によって分類した。動詞の判定基準は、次のとおりである。

- ①その動詞が「語彙表」にあれば「1級の動詞」とする。
- ②その動詞がそのままの形では「語彙表」にないが、語構成要素のすべてが「語彙表」にある場合は、「語構成要素が1級の動詞」とする。
- ③上記①②に該当しない動詞は、「その他の動詞」とする。ただし、サ変動詞については、「する」に前接する語構成要素が「語彙表」にあれば「1級の動詞」、なければ「その他の動詞」とする。

「価格競争が始まる」(新)のような、1級の動詞との専門連語は、両資料とも7割を超える高率だったことから、専門語の意味さえわかれば、動詞との専門連語は理解しやすいと予想される⁵⁸⁾。両資料を比べると、概論では「国民所得が減少する」のような1級の動詞との専門連語が85.1%に達し、その他の動詞との専

門連語も少なかったので、連語にのみ注目すれば、概論のほうが新聞よりもやさしい専門連語といえよう。専門文献の動詞に1級の動詞が多いことは農学系学術雑誌の語彙調査でも指摘されており（村岡・柳 1995）、専門連語においても同様の傾向が確認された。

表6 日本語能力試験からみた動詞の専門連語の分類

	概論	新聞
1級の動詞との専門連語	85.1% (80)	74.1% (126)
語構成要素が1級の動詞との専門連語	5.3 (5)	9.4 (16)
その他の動詞との専門連語	9.6 (9)	16.5 (28)

6. 名詞との専門連語

経済の専門導入期における専門連語は、専門語と一般語の名詞とから成る専門連語が概論に218種、新聞に420種あった。概論の専門連語218種は、「国民所得」「消費者」「財貨」など55語の専門語と名詞とから成る連語であり、新聞の専門連語420種は、「公共事業」「所得税」「景気対策」など76語の専門語と名詞とから成る連語ある。両資料に共通の専門連語は、「株主の利益」「国際収支の均衡」など23種であった。

6-1. 専門語と名詞との修飾関係

専門語と名詞との専門連語を両語の修飾関係によって分けると、「国民所得の水準」(概)のように専門語が一般語の名詞を修飾する専門語修飾型が、概論の79.8% (218)、新聞の83.3% (350)を占めた。専門語修飾型の割合は、100%に近かった動詞との専門語に比べれば低いものの、両資料ともほぼ8割を超えており、高い割合を占めている。

6-2. 専門語と名詞との結びつきの型

専門語と名詞との専門連語を両語の結びつきの型によって分類すると、概論に14種、新聞に22種の型があったが、上位2種は両資料共通で、「専門語+の+名詞」が6割を超えて最多、「名詞+の+専門語」がそれに次いだ。「専門語+の+名詞」は、専門語と名詞を結びつける基本的な型であり、「バブル経済の崩壊」(概)、「景気対策の柱」(新)、「金融市場の開放問題」(新)など多様な意味を表わす。

表7 名詞との専門連語における専門語と名詞との結びつきの主な型

結びつきの型	専門連語の例	概論	新聞
専門語+の+名詞	バブル経済の崩壊 (概)	67.4% (147)	64.5% (271)
名詞+の+専門語	マイナスの経済成長 (新)	18.3 (40)	13.1 (55)

6-3. 名詞の語種と語構成

専門語と名詞とから成る専門連語を名詞の語種によって分類すると、両資料とも漢語の名詞をとる専門連語が最も多かった。ただし、概論ではそれだけで9割近くを占めるのに対し、新聞では漢語の名詞をとる専門連語は4分の3強で混種語の名詞をとる専門連語も1割以上あり、両者で9割強になった。新聞の混種語の名詞には、「歳出の大幅カット」(新)など外来語要素を含むものが多く、動詞との専門連語の場合と同様に、漢語を避けてわかりやすい表現を心がける新聞の性格が表われているといえよう。

表8 名詞の語種による専門連語の分類

	専門連語の例	概論	新聞
漢語名詞との専門連語	<u>経済活動</u> の規模(概)	87.6% (191)	76.4% (321)
混種語名詞との専門連語	<u>貿易収支</u> の黒字(新)	6.4 (14)	14.3 (14)
和語名詞との専門連語	<u>歳出</u> の見直し(新)	3.7 (9)	6.9 (9)
外来語名詞との専門連語	マイナスの <u>経済成長</u> (概)	1.8 (4)	2.4 (4)

次に、専門語と名詞とから成る専門連語を名詞の語構成要素数によって分類した。語構成要素が1つの語は単純語、2つ以上は合成語に相当する。分類は、石井(1997)を一部修正し、以下の基準に従った。

漢語については、二字漢語をもって1つの語構成要素とし、一字漢語は他の語構成要素と結合する場合に限って語構成要素と認める。本来並列の構造にある要素どうしが結合した「投融資」「生損保」などは、全体を1つの語構成要素とする。数字・英文字・記号については、1文字を1つの語構成要素とする。ただし、これらが連続した場合は、それ全体を1つの語構成要素とする。「借入れ」などの複合動詞からの転成名詞は、語形成的には1つの語構成要素であるが、静的にとらえて「取引」と同様に2つとする。

表9 名詞の構成要素数による専門連語の分類

	概論	新聞
語構成要素が1つの名詞との専門連語	54.1% (118)	35.2% (148)
語構成要素が2つの名詞との専門連語	35.3 (75)	43.6 (183)
語構成要素が3つの名詞との専門連語	9.2 (20)	14.0 (20)
語構成要素が4つ以上の名詞との専門連語	2.3 (5)	7.1 (5)

概論では、「バブル経済の影響」のように語構成要素が1つの名詞との専門連語が5割を超え、次いで「有効需要の調節/手段」のように語構成要素が2つの名詞との専門連語が3割以上で、両者で約9割に達した。それに対し、新聞では「金融政策の有効/性」のような語構成要素が2つの名詞との専門連語が4割を超え、次いで「国債の発行」のような語構成要素が1つの名詞との専門連語が3割以上

で、両者で8割弱に上った。名詞の語構成要素数は多いほど語が複雑で難しいため、名詞との専門連語では概論の方が学習しやすいと思われる。

6-4. 日本語能力試験との関係

専門語と名詞とから成る専門連語における専門語は、すべて「語彙表」に掲載されていないが、名詞はさまざまである。名詞が「語彙表」に掲載されていれば、そうでない専門連語に比べて学習しやすいと考えられるため、名詞との専門連語を名詞が「語彙表」にあるか否かによって分類した。名詞の判定基準は、次のとおりである。

- ①その名詞が「語彙表」にあれば「1級の名詞」とする。
- ②その名詞がそのままの形では「語彙表」にないが、語構成要素がすべて「語彙表」にあれば、「語構成要素が1級の名詞」とする。
- ③上記の①②に該当しない名詞は、「その他の名詞」とする。

動詞の連用形の名詞は、「語彙表」では動詞とは別語とするが、掲載語数が少ないため、動詞があれば、1級の名詞とする。複合動詞の連用形の場合も同様に扱う。「大きさ」は「語彙表」に掲載されていないが、1級の名詞とする。この基準による判定をもとに専門連語を分類した結果は、次のとおりである。

表 10 日本語能力試験からみた名詞との専門連語の分類

	概 論	新 聞
1 級の名詞との専門連語	49.1% (107)	28.8% (121)
語構成要素が 1 級の名詞との専門連語	30.3 (66)	35.2 (148)
その他の名詞との専門連語	20.6 (45)	36.0 (151)

1 級の名詞との専門連語は、概論では約 5 割、新聞では 3 割以下と少なく、動詞との専門連語では 7 割以上だったのとは対照的である。名詞との専門連語は、動詞との専門連語に比べて難しく、概論と新聞とでは新聞のほうがより難しいと思われる。

7. 形容詞との専門連語

専門語と形容詞とから成る専門連語は、概論に 14 種、新聞に 28 種あった。概論の専門連語 14 種は、「コスト」「金融政策」「需要曲線」など 10 語の専門語と形容詞とから成る専門連語で、新聞の専門連語 28 種は、「コスト」「労働力」「景気後退」など 17 語の専門語と形容詞とから成る専門連語である。両資料に共通する専門連語は、「コストが高い」「コストが低い」「生産性が高い」の 3 種であった。

7-1. 専門語と形容詞との修飾関係

専門語と形容詞とから成る専門連語を両語の修飾関係によって分類すると、「付

加価値が高い」(新)のような専門語修飾型と「基本的な金融政策」(概)のような専門語被修飾型とが、概論では半々(各7)、新聞では専門語修飾型が53.6%(15)で専門語被修飾型をやや上回る程度で、2つの型が相半ばしていた。秋元(1996)は一般語の程度名詞と形容詞との連語を考察し、述定用法(小論の専門語修飾型)が中心的だとしているが、専門連語では異なる結果となった。その理由は現段階では不明であるが、興味深い。

7-2. 専門語と形容詞との結びつきの型

専門語と形容詞とから成る専門連語を両語の結びつきの型によって分類すると、概論には、「財政政策が拡張的だ」のような「専門語+が+形容詞」、「巨大な多国籍企業」のような「形容詞+専門語」の2種があり、新聞には「公定歩合が低い」のような「専門語+が+形容詞」、「適正なコスト」のような「形容詞+専門語」、「市場価格より安い」の「専門語+より+形容詞」の3種があった。動詞や名詞との専門連語とは異なり、結びつきの型の種類が少なく、専門語と形容詞との修飾関係とほぼ重なった。

7-3. 形容詞の語種と語構成

専門語と形容詞とから成る専門連語を形容詞の語種によって分類すると、概論では名詞との専門連語の場合と同様に漢語との専門連語が6割を超えたのに対し、新聞では和語の形容詞との専門連語が6割近くもあり、対照的だった。

表 11 形容詞の語種による専門連語の分類

	専門連語の例	概論	概論教科書
和語の形容詞との専門連語	市場価格が高い(新)	35.7%(5)	57.1%(16)
漢語の形容詞との専門連語	主要な金融政策(概)	64.3(9)	42.9(12)

次に、専門語と形容詞とから成る専門連語を形容詞の語構成によって分類すると、概論も新聞も単純語の形容詞との専門連語の方が多く、概論では6割を上回り、新聞では4分の3に達した。

表 12 形容詞の語構成による専門連語の分類

	専門連語の例	概論	新聞
単純語の形容詞との専門連語	生産性が高い(新)	64.3%(9)	75.0%(21)
合成語の形容詞との専門連語	金融市場が閉鎖的(概)	35.7(5)	25.0(7)

7-4. 日本語能力試験との関係

専門語と形容詞とから成る専門連語における専門語は、すべて「語彙表」に掲載されていないが、形容詞はそれぞれ異なる。形容詞が「語彙表」に掲載されている専門連語は、そうでないものに比べて学習しやすいと考えられるため、形容

詞が「語彙表」にあるか否かによって専門連語を分類した。形容詞の判定基準は、次のとおりである。

- ①その形容詞が「語彙表」にあれば「1級の形容詞」とする。
- ②その形容詞がそのままの形では「語彙表」にないが、語構成要素がすべて「語彙表」にある場合は、「語構成要素が1級の形容詞」とする。
- ③上記の①②に該当しない形容詞は、「その他の形容詞」とする。

形容詞との専門連語は、新聞と概論のいずれにおいても、「主要な金融政策」(概)「付加価値が高い」(新)のような1級の形容詞との専門連語が多く、概論では6割近く、新聞では7割を超えた。形容詞との専門連語は、既習の形容詞が多いという点で新聞の方が学習しやすいといえる。

表 13 日本語能力試験からみた形容詞との専門連語の分類

	概論	新聞
1級の形容詞との専門連語	57.2% (8)	71.4% (20)
語構成要素が1級の形容詞との専門連語	35.7 (5)	14.3 (4)
その他の形容詞との専門連語	7.1 (1)	14.3 (4)

8. おわりに

小論では、日本語教育を上級まで終了し大学等で経済分野を学び始めた留学生に必要な「経済の専門導入期における専門連語」(小宮, 印刷中)のリストに掲載されている、経済分野の概論教科書からの専門連語 326 種と新聞の経済記事からの専門連語 618 種について次の観点から比較を行った。①専門連語の共通度、②専門語と一般語との修飾関係、③専門語と一般語との結びつきの型、④一般語の語種と語構成、⑤一般語の日本語能力試験との関係。

概論の専門連語と新聞の専門連語とは、共通の専門語は多いものの、共通の専門連語は少なかった。同じように経済について述べた文章であっても、概論と新聞とは、目的、対象、内容、表現も異なることがその原因と思われる。

概論の専門連語では、一般語が動詞、名詞、形容詞のいずれの品詞の場合も漢語(動詞の場合は漢語サ変動詞)をとる割合が高かった。それに対し、新聞は漢語はとるが、和語や外来語も交えており、そのことが概論に比べて読みやすいという印象につながっていると思われる。ところが、一見やさしそうに見える新聞より概論のほうが動詞も名詞も日本語能力試験1級の語が多かった。また、新聞の専門連語の名詞には、語構成要素の多い複雑な名詞が多かった。

小論の調査では、概論と新聞の専門連語の全体について形式に限り調査を行った。今後は、専門連語の意味についても扱い、より詳しい分析を行いたい。また、専門連語のよりよい抽出法を開発するために、資料の内容や分量、専門連語の判定方法などの改善を重ねていきたい。

<注>

- 注1 専門語の定義はさまざまだが、概念を表す語という立場と特定の専門分野で使用される語という立場に大別される。詳しくは、影浦(2002)を参照。宮島(1981:10)には、専門語の特徴として9項目が挙げられている。
- 注2 連語とは2~3つの語の集まりをいうが、定義はさまざまで、「花が」も連語とする立場(『日本文法大辞典』)、自立語同士の従属的な関係(言語学研究会1983)、「傘をさす」のように慣用的に決まっていることばの組み合わせ(宮地1985、国広1997)などがある。海外での連語研究についてはCowie(1998)、連語による教育については、滝沢(1999)、Lewis(2000)を参照。
- 注3 海外での専門語の連語の研究については、L'Homme(2000)を参照。
- 注4 小宮(印刷中)は、小宮(2001)で選定方法と概論の専門連語のみを公表した「経済の初期専門教育における専門連語」と同一の資料をさす。小宮(印刷中)では新聞の専門連語も含めて906種のリストを発表する。なお、小論では小宮(2001)に沿って「GDP」「国内総生産」のように同一概念を表す語は別語とし全体を93語とするが、小宮(印刷中)ではそれらをまとめ、89語としている。
- 注5 今回のリスト作成のために収集した連語例では、同一の連語例は1例が最も多く、1例だけで概論の専門連語や新聞の専門連語と判断するのは難しい。連語の用例調査としては、資料を増やす必要がある。
- 注6 L'Homme(2000)はフランス語の専門語の連語の型として、小論と同様に、動詞との連語、名詞との連語、形容詞との連語を挙げている。
- 注7 「所得税を徴収する」(概)と「所得税を取る」(新)は、同じ内容を異なる専門連語で表す例だが、「供給曲線の勾配」(概)や「株主の経営チェック機能強化」(新)のように、事柄からして概論か新聞よりの内容という場合もある。
- 注8 「国民所得が増加する」と「国民所得が均衡する」はいずれも1級動詞との専門連語だが、前者が高校政治経済教科書にもあるのに対し、後者は大学学部4年生ぐらいで学習する概念と経済の専門家に伺った。専門連語の表す概念の難しさは、一般語が1級の語であるかだけでは判断できない。

<参考文献>

- 秋元美晴(1993)「語彙教育における連語指導の意義について」、*PROCEEDINGS OF THE 4TH CONFERENCE ON SECOND LANGUAGE RESEARCH IN JAPAN*, 国際大学
- 秋元美晴(1996)「程度名詞と形容詞の連語性」『日本語教育』102
- 秋元美晴(2002)「連語の研究と語彙運用力向上のためのその指導法」水谷修・李徳奉編『総合的日本語教育を求めて』国書刊行会
- 石井正彦(1997)「専門用語の語構成—学術用語の組み立てに一般語の造語成分が活躍する—」『日本語学』16-2
- 岡 益巳(1992)「非漢字圏からの留学生のために日本経済基本用語集」『岡山大学経済学会雑誌』23-4
- 岡 益巳(1994)「経済学部留学生のための経済用語の指導について」『日本語教育』82

- 影浦 峽 (2002) 『専門用語』の理論に関する一考察『情報知識学会誌』12-1
- 国広哲弥 (1997) 『理想の国語辞典』大修館書店
- 言語学研究会編 (1983) 『日本語文法・連語論 (資料編)』むぎ書房
- 小宮千鶴子 (1995) 「専門日本語教育の専門語—経済の基本的な専門語の特定をめざして—」『日本語教育』86
- 小宮千鶴子 (1997) 「専門日本語教育における専門連語の選定—経済記事の『基本的専門語』+を+動詞を例に—」『中央学院大学商経論叢』10-1
- 小宮千鶴子 (2001) 「経済の初期専門教育における専門連語」『専門日本語教育研究』3
- 小宮千鶴子 (2002) 「専門連語と専門連語辞書」『情報知識学会誌』12-1
- 小宮千鶴子 (2003) 「専門連語の構造—形式面の量的構成を中心に—」『早稲田大学日本語教育研究』3
- 小宮千鶴子 (印刷中) 「経済の専門導入期における専門連語」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』18
- 阪田雪子 (1990) 「連語・慣用句」『講座日本語と日本語教育7』明治書院
- 佐藤友則 (2003) 「信州大学の日本語研修コースへの提言」『信州大学留学生センター紀要』4
- 城田 俊 (1991) 『ことばの縁』リベルタ出版
- 滝沢直宏 (1999) 「電子化コーパスとコロケーション」『大学と学生』417
- 谷口秀治 (2001) 「日本語教育におけるコロケーションの扱い」『教育学研究紀要』47-2
- 西谷まり (2001) 「内容中心の日本語教育」『留学生教育』6
- 仁科喜久子 (1997) 「日本語教育における専門用語の扱い」『日本語学』16-2
- 野澤素子・岡田泰男・村田年 (1995) 『はじめての経済学—日本語と英語で学ぶ経済用語1000』慶應通信
- 宮地 裕 (1985) 「慣用句の周辺—連語・ことわざ・複合語」『日本語学』4-1
- 宮島達夫 (1981) 『専門語の諸問題』(国立国語研究所報告68) 秀英出版
- 水本光美・池田隆介 (2003) 「導入教育における『基礎専門語』の重要性—環境光学系留學生のための語彙調査と分析から—」『専門日本語教育研究』5
- 村岡貴子・柳智博 (1995) 「農学系学術雑誌の語彙調査—専門分野別日本語教育の観点から—」『日本語教育』85
- 村木新次郎 (1980) 「日本語の機能動詞表現をめぐる」『研究報告集(2)』
- Cowie, A. P. (ed.) (1998) *Phraseology: Theory, Analysis, and Applications*, Oxford University Press
- Howarth, P. A. (1996) *Phraseology in English Academic Writing*, Max Niemeyer
- Lewis, L. (ed.) (2000) *Teaching Collocations: Further Developments in the Lexical Approach*, Language Teaching Publications
- L'Homme, M. C. (2000) 'Understanding specialized lexical combination', *TERMINOLOGY*, 6-1